

中津市版
まち・ひと・しごと創生総合戦略
及び人口ビジョン（概要）

平成27年10月
中津市

総合戦略策定までの経緯

○市組織形成

・中津市まち・ひと・しごと創生本部、事務局設置（1月19日）

○市民の意識醸成

・石破茂地方創生担当大臣講演会開催（5月10日）

○関係団体代表等からの意見

産業界・官公庁・学界・金融機関・労働機関・言論界（マスコミ）、住民代表で組織を構成し、意見を聞き取り

中津市まち・ひと・しごと創生懇談会開催（6月4日）

（※懇談会委員内訳：産業界10名、官公庁2名、学界4名、金融機関4名、労働機関1名、マスコミ関係1名、住民代表8名 計30名で構成）

○市議会を通じた意見

市議会常任協議会と各種団体との意見交換会（7月12日から15日まで）



中津市議会からの提言受領（8月5日、17日）

市議会一般質疑、常任委員会協議会での説明（9月9日～18日）

中津市まち・ひと・しごと創生懇談会開催（9月1日）

官民一体となった総合戦略原案作成

○市民からの意見

市民座談会開催（市内各地区公民館等22ヶ所、7月25日から8月2日まで開催）

○その他

市関係部署による日常業務を通じた関係団体等との意見交換

パブリックコメント（8月28日から9月25日まで）

総合戦略完成

力を結集し さらなる発展を目指す地域中核都市 なかつ

～世界のモデル都市を目指して～

まち

- 山国地域におけるモデル地域での拠点形成
- 高齢者等の見守り制度確立
- 関係機関と連携した障がい者等の生活支援
- 自主防災組織づくり推進

1. 拠点とネットワークによる暮らしやすいまちづくり
2. すべての人が健康的かつ安心して暮らせるまちづくり
3. 大規模災害に備えた安全安心のまちづくり

安心して住み続けたいと思える中津を目指す

- 英会話教育の充実
- 基礎学力向上、高レベル講座実施
- 公立幼稚園教育期間延長
- 若者の地元定着

中津の未来を担う
人材を育む

1. 地域や社会が求める人材の育成
2. 子育て環境の充実

1. 第1次産業の経営体制強化
2. 収入増につながる生産環境の構築
3. 1次産品の価値を高める販売の工夫

中津の第1次産業に
新たな道を拓く

- 農業生産法人の体制強化
- 中津産品のブランド化(カキ、山国米)
- 耕畜連携(飼料用稲・米の体制構築)
- 水産業の生産組合設立
- 木材の海外も視野に入れた出荷ルート開拓

1. 起業・創業等、新たなチャレンジへの積極的支援
2. 企業誘致の推進
3. 中心市街地・商店街の活性化

中津の地域や産業が行う
未来志向の新しい取り組みを支える

- 3Dプリンタ利用促進、事業化支援
- 創業支援、ワンストップ窓口
- クラウドファンディング活用による創業等支援
- 企業誘致・トップセールス、優遇制度制定
- 商店街主体の活性化

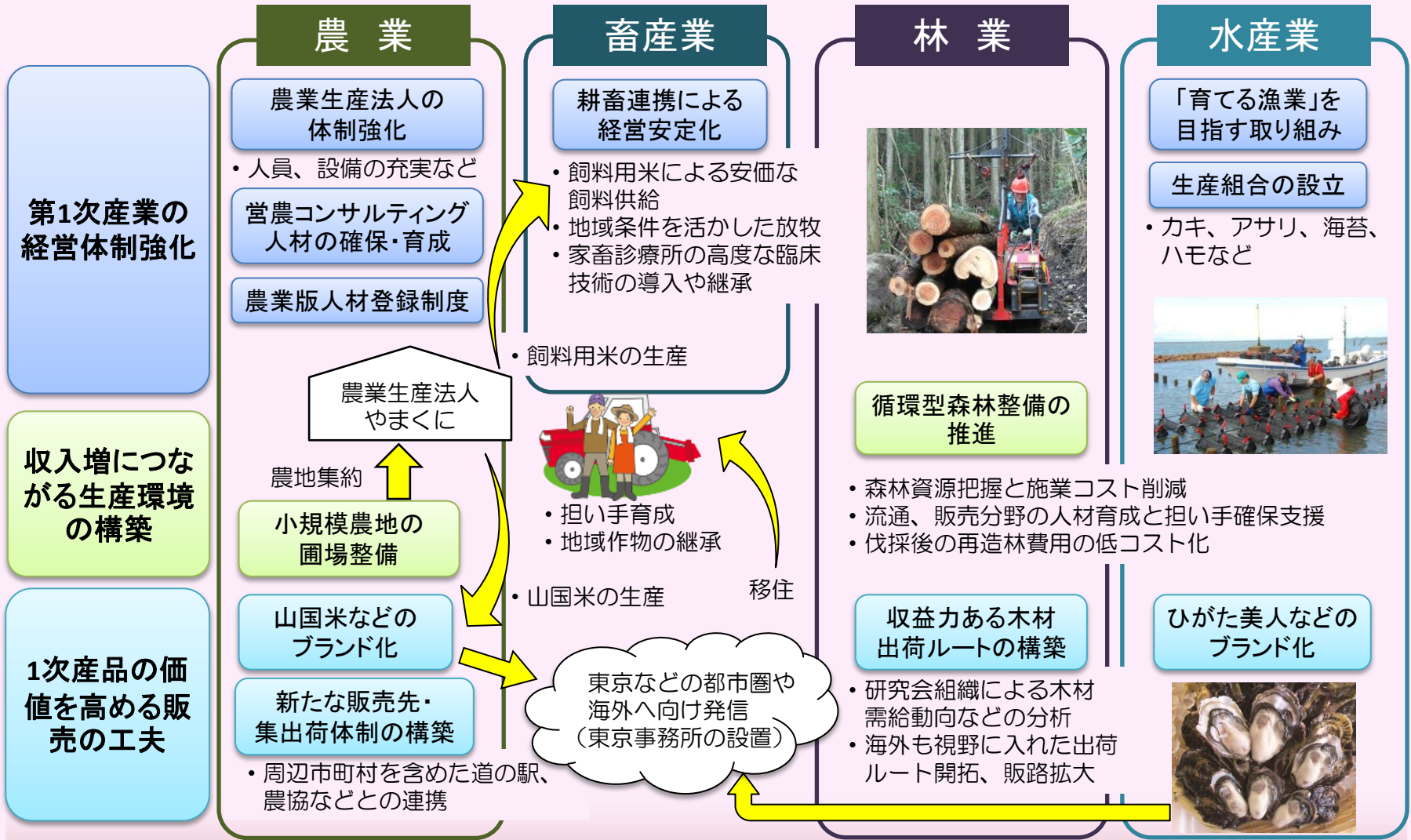
誰もが暮らしやすいまち

人を呼び込み、
中津を元気にする

- 歴史資産等の観光素材魅力向上
- 観光協会法人化等体制強化
- 誘導標識設置計画策定、整備
- ハモ等の名産品作り後押し
- 体験型観光プログラム形成
- インバウンド対策
- 使える空き家の増加とコンシェルジュ

1. 観光客の増加と収入増への取り組み推進
2. 空き家等を活用した人口減少地域への移住・定住促進

ひと



第1次産業の収益増 新たな担い手確保

施策の柱

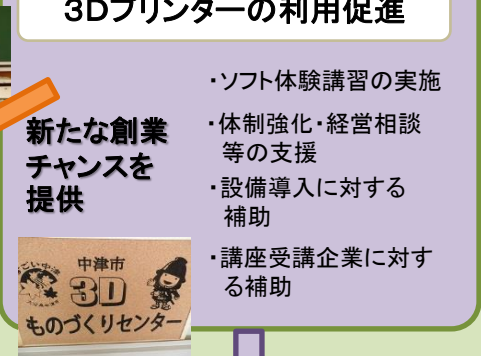
②

中津の地域や産業が行う未来志向の新しい取り組みを支える

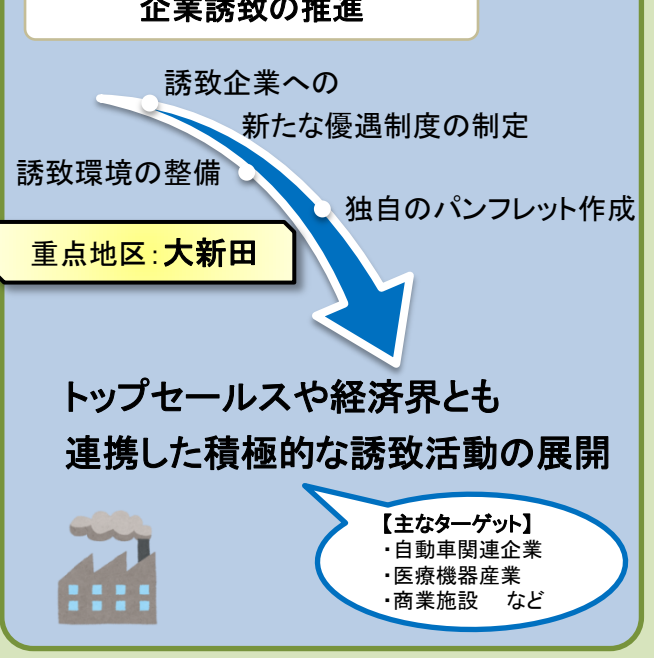
創業支援体制の充実・強化



3Dプリンターの利用促進

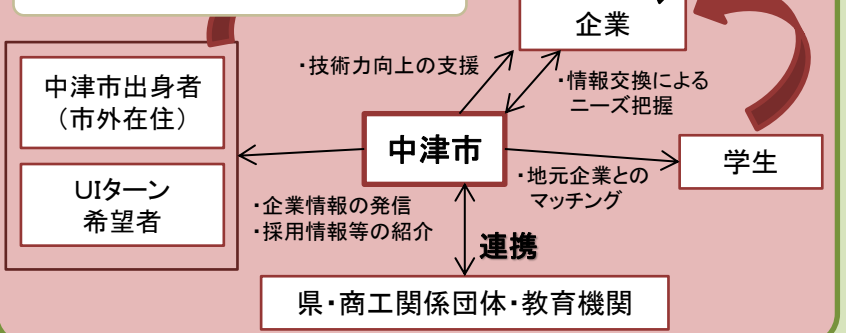


企業誘致の推進

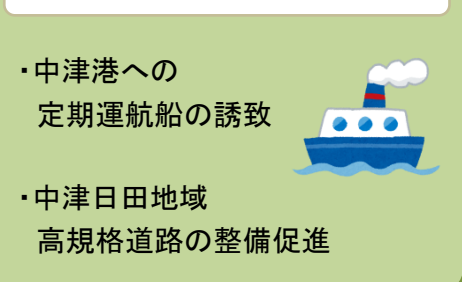


中津の地場産業の活性化

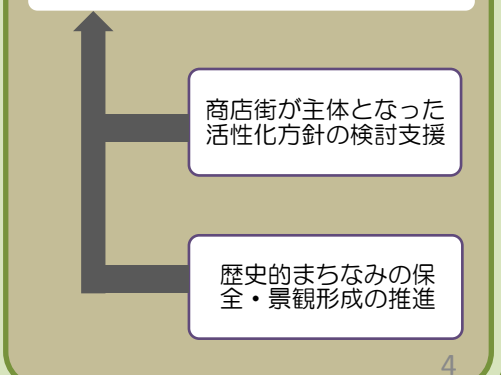
人材確保等の中小企業支援



物流ネットワークの充実



中心市街地・商店街の活性化



人を呼び込み、中津を元気にする

観光客増加・収入増への取り組み推進

〈2〉情報発信・売り込み強化

福岡・広島等からの自動車利用者をターゲットに情報発信

大分県への宿泊
1位 2位

海外・韓国・台湾などをターゲット

〈8〉インバウンド対策強化

・海外商談会への参加
・海外メディアやパワーブロガー等の招致

〈3〉受け入れ体制構築

東九州道（H28春）

・PA等に広域観光看板の設置

・観光地への誘導標識設置計画策定と整備
・ボランティアガイドの接遇力・広域対応力強化

〈6〉クルーズ船誘致

・ポートセールスやトップセールスを積極的に推進

〈1〉観光素材の魅力向上

沖代条里等古代ゾーンの整備

八面山の景観、遊歩道整備

日本新三景としての情報発信

- 1 耶馬溪
- 2 三保の松原（静岡）
- 3 大沼公園（北海道）

サイクリングロードを活用した観光の充実

“鱧のまち
中津”

本耶馬溪
“そばの里”

〈5〉名産品づくりの後押し

・生産力の強化
・販売者の拡大
・PRによる知名度向上

〈4〉観光産業収入増への取り組み

・外部目線を取り入れた観光産業の活性化（深耶馬溪地区等）

〈7〉体験・学習・スポーツ観光プログラム形成促進

・自然素材を活かした体験型観光の需要把握とプログラムの形成
・ラグビーW杯などの事前キャンプ誘致

人口減少地域への移住・定住促進

下毛地域への移住・定住促進

・空き家バンク登録物件の拡大、マッチング、アフターケア等
・移住体験のための空き家見学ツアー開催、宿泊補助
・空き家情報＋地域・雇用情報の発信 等

空き家バンク対象エリアの拡大

・旧町村部に加え、旧城下町エリアをモデルに対象を拡大

空き家の有効活用に向けた実態調査の推進、相談窓口の設置

行政

連携

観光協会

観光関係業界

・法人化による体制強化

戦略的に実施

・観光客の増加
・観光産業の収入増へ

・中津に住みたい人を呼び込む

施策の柱
④

中津の未来を担う人材を育む

幼児期

小学生

中学生

高校生

大学生

社会人

幼児期教育の充実

- 下毛地域での保育所型認定子ども園の実施
- 公立幼稚園(1園)での教育期間延長(1年→2年)の試行(※)



学力向上への取り組み

- 放課後中津子ども教室と連携した基礎基本対策講座実施
- 学力上位層対象講座実施
- 学びのススメ塾の更なる充実



市内で学び、卒業後も市内で技術を活かす学生支援

- 学生と地元企業のマッチング
- 奨学金制度等による支援
- 中学、高校、短期大学校の連携による職場体験

英会話教育の充実

- 学校授業及び授業以外での英語教育
- 学びのススメ英検塾による英検取得の推進

ふるさと教育・しつけ教育充実

人材育成

地域や社会が求める
中津の未来を担う人材へ

幼児期の子育てニーズ

- 公立保育所(第二保育所等)による一時預かり事業の実施
- ファミリーサポートセンター事業での夜間預かり、病児預かりの実施

学期

春・夏・冬休み

- 放課後児童クラブ開設

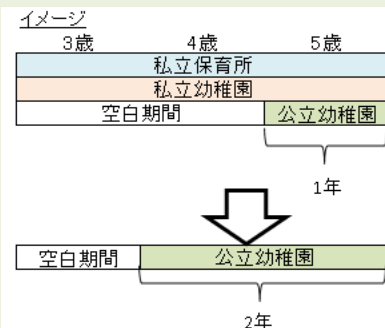
子どもの視点を重視した施設整備

- 歩道整備、歩車道分離の整備
- 屋内外で親子が集える遊び場の充実

子育て環境

共働き家庭が安心して
子育てできる環境へ

※「公立幼稚園(1園)での教育期間延長(1年→2年)の試行」イメージ図



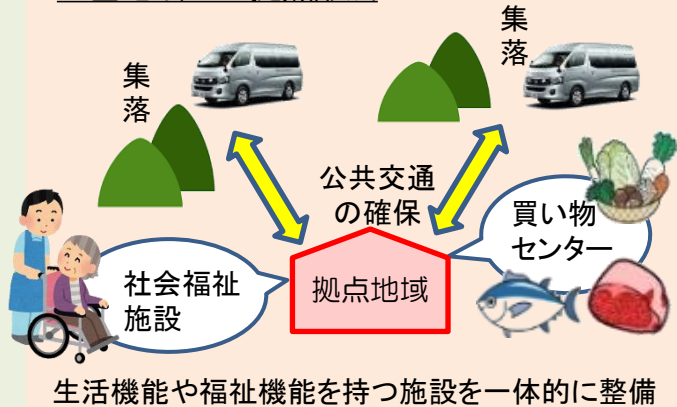
施策の柱
⑤

安心して住み続けたいと思える中津を目指す

拠点とネットワークによる暮らしやすいまちづくり

- 生活機能、福祉機能を持つ施設の一体的整備(山国)
- モデル地区による地域活性化支援(今津)
- 中津市全体の公共交通の再検討

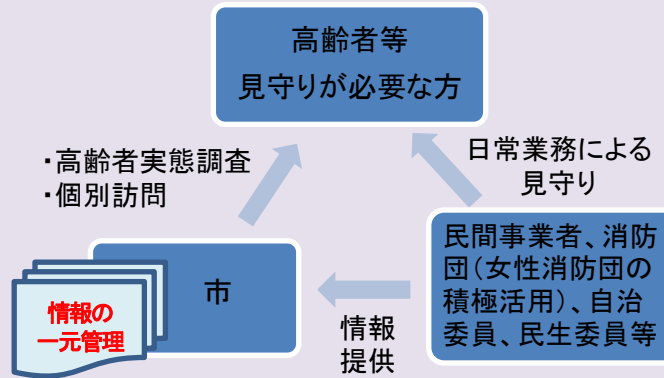
山国地域での拠点形成



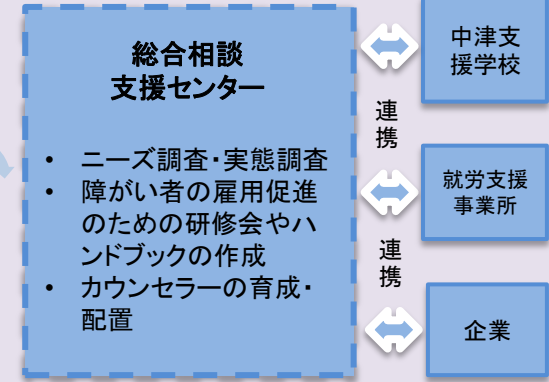
健康かつ安心して暮らせるまちづくり

- 高齢者等の見守り制度の確立
- 市民病院の医療体制強化
- 病診連携、医療と介護の連携推進
- 健康データ活用による予防事業推進
- 関係機関と連携した障がい者等の生活支援
- 生活排水処理率向上(繋ぎ込み促進)
- 犯罪の起きにくい環境づくり(落書き消し活動)

高齢者等の見守り制度の確立



関係機関と連携した障がい者等の生活支援



安全安心のまちづくり

- 部署設置による庁内防災体制強化
- 自主防災組織づくり推進
- 内水排水対策の検討、推進

住んでいる人が安心して暮らしやすいまち なかつ

中津市版まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの概要

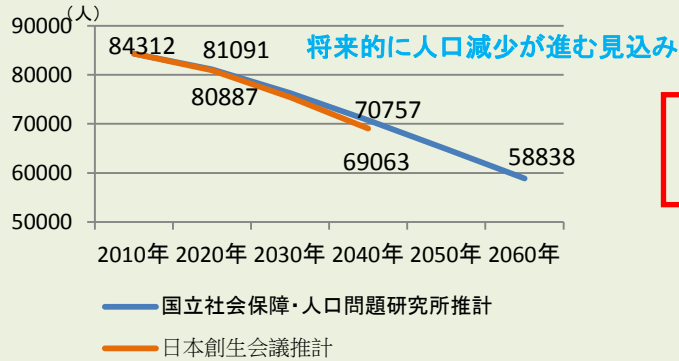
概要

人口の現状を分析し、目指すべき将来の展望を提示

※中津市版人口ビジョンにおける2060年までの将来人口推計については、始めに人口目標ありきではなく、課題を解決するために行う施策の積み上げの成果として表れる社会人口の増などを加味した上で推計

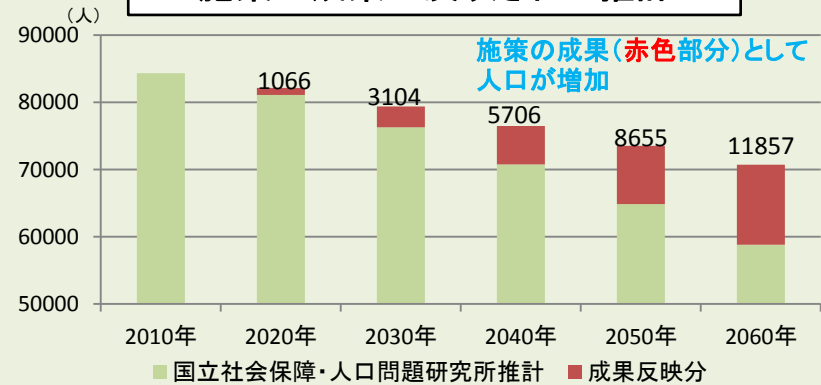
中津市の将来人口推計

外部機関推計



施策の積み上げの成果

施策の成果が反映された推計



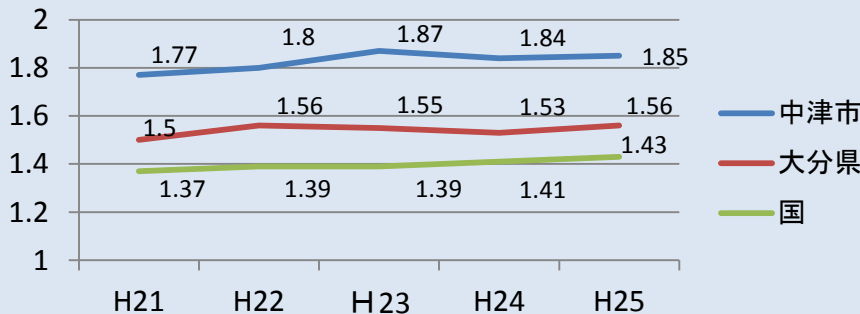
総人口 84312人 82157人 79376人 76463人 73530人 70695人

※国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」との比較

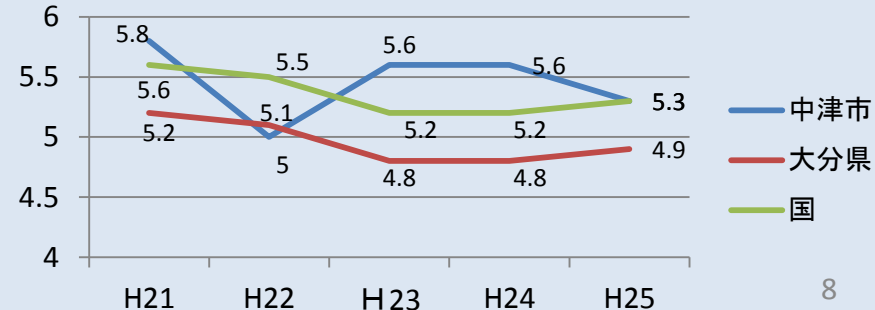
資料:国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成25年3月推計)」
 (「日本の将来推計人口(平成25年3月推計)」は、出生中位(死亡中位)の仮定による)
 日本創生会議「全国市区町村別将来人口推計」(日本創生会議「全国市区町村別将来人口推計」は2040年までの推計)

中津市の合計特殊出生率、婚姻率の推移

合計特殊出生率



婚姻率



戦略策定後の取り組み

○推進体制

施策実施:各施策に係る市関係部署
進捗管理:まち・ひと・しごと創生本部事務局

○推進に向けた取り組み

①関係機関との連携

- ・まち・ひと・しごと創生実現に向け、総合戦略に掲げた施策について金融機関と連携し、互いに協力した取り組みを推進
- ・「地域おこし協力隊」など地域外人材の活用も図りながら、地域や関係機関と密接に連携

②組織体制の強化

- ・地域の実情に応じ効果的に行財政運営を行っていくための組織体制の見直し
- ・施策の立案、遂行に携わる市職員の能力向上

③自治体間での広域的な連携

- ・定住自立圏共生ビジョンとの整合性を図りながら、関係自治体と協議の上で総合戦略に位置付け
- ・総合戦略の計画期間中に新たな連携の必要性が発生した場合は積極的に連携を推進

④交付金の活用

- ・国からの交付金も最大限活用し、まち・ひと・しごと創生の取り組みを実施

※PDCAサイクル

PLAN-DO-CHECK-ACTIONの略称で、PLAN(計画) DO(実施) CHECK(評価) ACTION(改善)の4つの視点をプロセスの中に取り込むことでプロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法。

○施策の検証

(※実施状況については公表)

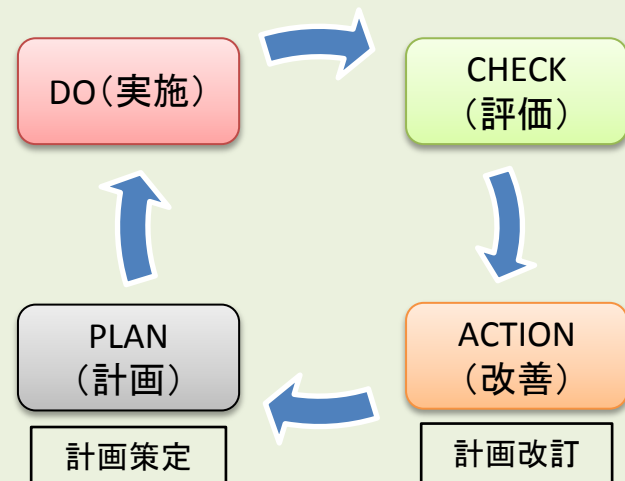
・実施方法

総合戦略に記載した施策の柱ごとに、実現すべき成果(アウトカム)に係る客観的な数値目標や施策ごとの重要業績評価指標(KPI)を設定し客観的に成果の検証を実施

・実施主体

「中津市まち・ひと・しごと創生懇談会」の委員を中心として、新たに構成するメンバーにより検証

※主な指標:農業生産法人における収益増、空き家バンク利用移住者数、山国地域拠点施設年間利用者数 など



・検証の結果、必要があればその都度戦略を見直し

中津市版まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく 金融機関との連携（主な事例）

＜連携する金融機関名＞大分銀行、豊和銀行、大分みらい信用金庫、大分県信用組合、九州労働金庫、福岡銀行、西日本シティ銀行、北九州銀行（8金融機関）

農林水産物、工業製品
から観光まで

販路拡大支援

（国内・海外）

例) ひがた美人(カキ)
本耶馬溪そば
山国米、牛・豚肉
杉・ヒノキ

金融機関主催の商談
会の開催

金融機関の店舗を活用
した観光・中津産品PR

海外支店等を活用した
現地情報の提供・輸出
支援

市内の世界的な遺産
を活用した

インバウンド支援

例) 海外からの誘客

- ・羅漢寺
- ・古代ゾーン
（沖代条里等）
- ・サイクリングロード

外国人職員による外部
目線での観光情報提供

海外用プロモーション
支援、海外用独自ツ
アー企画支援

UIターン等の

移住者支援

例) 空き家バンクを活用し
た移住施策の推進

＜優遇金利設定＞

空き家バンクを活
用した場合の改修工
事費融資の優遇金
利設定

高齢者の見守り等の
**安全・安心のため
の支援**

例) 高齢者の見守り

集金、相談業務等の
訪問活動を通じての
高齢者の見守り支援

例) 健康増進

（特定健診の受診率向上）

＜優遇金利設定＞
特定健診の受診を条
件とした預金の優遇
金利設定